

第 1 回青年部会の発言とりまとめ

- 1 日 時 平成 27 年 11 月 9 日 (月) 16:00~17:55
- 2 委 員 20 歳台後半から 40 歳台前半 男女 30 名 (別添名簿のとおり)
- 3 内 容 以下のとおり (詳細は別添「議事要旨」)

経 済

(ものづくり産業の振興、新産業創出、労働生産性の向上)

- ・ ものづくり県である富山県が、さらに国内でも確固たる地位を確立するようにしたい。
- ・ ものづくりの科学技術を富山から世界へと発信していくために、発信できるような環境、発信できる技術、そして優秀な人材を今まで以上に醸成できるような環境があればよい。
- ・ ものづくりは生産性の向上ということもあるが、最終的には自然と環境を壊さない産業というところでないか。そういった最先端の技術に関わるベンチャー企業を誘致してはどうか。
- ・ 東京ではM&Aや業界再編に投資をして会社ごと買って企業体力を付けるということをやっている。県内でもこうしたリスクのある投資を行えるような仕組みを作れないか。
- ・ イノベーションを自社だけでは中々できないこともあるので、オープンイノベーションの仕組みを富山県でつくることができれば、ベンチャー企業が多く生まれるのではないかと
- ・ 観光産業が富山でもっと発展していけば雇用の場も生まれる
- ・ 循環型農業が大切であるという理解者を増やしていくために、子どもたちが農業を理解できるような教育が必要でないか。
- ・ 経済が動くということは、魅力ある商店が一つでも多くクリエイトされることだと思って、地元のお店や銀行と手を組んで、一緒にワークショップなどを行っている。
- ・ 富山だけではなく、他県との広域連携を含めて、富山県では何が期待され、誰に何が喜ばれるのかを考えたい。
- ・ 富山ならではの自然と次世代技術、未来と歴史文化のバランスが非常に取れている。
- ・ 各々が生産性向上を推進することで、県全体の生産性の向上につながっていくのではないかと
- ・ シニア世代の企業支援を進めることで、伝統技術、ノウハウの継承や、労働生産性の維持・向上にもつなげていけるのではないかと

(発信力の強化、労働力の確保)

- ・ 富山ブランドをつくり出すことで、30 年後に向けた富山だからこそこれがあるというような一つのストーリーができて、ブランドとして売り出すことができるのではないかと
- ・ いかに富山の情報を発信して PR するか、富山とのつながりを感じるコミュニティをつくって広げていくかということが大事。
- ・ 富山の強みである自然災害の少なさ、豊かな水資源、交通インフラといった良い点を前面に出して PR して、企業誘致に取り組んではどうか。
- ・ 10 年後、20 年後、30 年後の富山県は健康寿命日本一の県であってほしい、健康で安心して生きられる県、より住みやすい県というイメージを高める。
- ・ 元気で社会に必要とされる生涯現役がナンバーワンの県であることを目指すべきでないか。
- ・ 女性の雇用率が高い、あるいは復職率が高い企業には、税制面や助成金などの優遇があってもよいのではないかと

- ・ 県内企業が欲しい労働力を把握し、高校や大学と連携して必要な職業や必要な生徒数の確保を見通し、県立高校の在り方、再編を考えたらどうか。
- ・ 富山県や県内企業の魅力を全国の学生に対して伝えていく必要がある。
- ・ 新卒の段階で富山の企業に就職してもらえるようにアピールをしてはどうか。例えば大学にある県人会とか、富山県の寮などを通じて、もっと広く就活生に周知するなど。
- ・ 高校生など自分の将来を見据えた段階で県内企業との接点を持つようなイベントや就職体験をすることで、県内企業のPRにもつながるのではないか。

グローバル化

- ・ 海外の市場でシェアを奪っていきけるようにするためには、人の教育をもっとグローバルにしていく必要がある。
- ・ 多くの中小企業にたくさんの外国人を受け入れてもらい、富山のことを知る外国人を増やし、帰国してから富山の良さをPRしてもらえばよい。
- ・ 国内外の方に富山県の農産物売り込み、県外からの移住者を増やし、女性の方や若い方にも農業を身近に感じてもらえる機会をつくりたい。
- ・ 海外の友人や留学生が、富山に住みたいという環境、来県する環境をどのようにつくれるか国際色豊かな都市を実現すること、海外の人に富山で創業してもらおうなど。

文化

- ・ 文化の向上という意味で、東京と富山はレベルの違いがすごくあり、まちのセンスの向上も必要ではないか。
- ・ 富山県を伝統工芸・文化の聖地（メッカ）とすべく、世界中から職人、研究者が集まるような技と知のセンターみたいなものを立ち上げていくことで、文化力を世界に発信していけると思う。
- ・ 富山の風景、散居村の景色は本当に美しく、これは本当に残していかなければいけない。富山の文化的な未来、日本の文化的な未来は、過去に地域が持っている歴史にあると思う。
- ・ 県と大学は、特に文化的な文系の研究などについて、もっと提携して、協力していかなければいけないのではないか。
- ・ 伝統工芸は、技術の遺伝子を未来へ運ぶプロジェクトだと思っている。伝統といえば富山、世界の中のデザインといえばやはり富山だね、というような未来を創造できたらなと考えている。

人づくり

- ・ 創造することに価値があり、幸せや豊かさにつながるということを今の子どもたちに伝えていくことが大切、お国自慢できる子たちが、どんどん増えていくことが期待できるのではないか
- ・ 地元愛とか、祭りとか、そういうもので次世代にとやまの魅力を感じてもらえばどうか。
- ・ 自分の意見を他人にちゃんと伝える力を付けるといったことを教育することが重要。
- ・ 大学に成長産業である医薬品業を担うような学生、高度ものづくりを支えるような学生たちを集めるための学部充実を考えてはどうか。
- ・ 教育に関しても他県とは違う、富山県ならではの教育プログラム、義務教育ではなく富山県はこんな子どもの育て方をするのだね、面白いねということで、人が富山に住んでくれるような教育プログラムもできたらよい。